

# ○生涯各期・領域における社会教育

## (1)生涯各期

### ①乳幼児期（概ね0～5歳）

#### ◆現状と課題

乳幼児期は、遊びを通して運動したり、楽しんだり、創意工夫したりして、個性や創造性を伸ばして成長していく時期で、特に、自然の中での遊びは、発見する喜びや驚き、感動を得、豊かな感性を育みます。同時に、親のぬくもりを求め、親に愛されているという実感を得ようとする大切な時期でもあります。

家庭では、家族のふれあいを大切にして、社会で生活していく上で必要なことの土台をきちんと身につけさせることが大切です。

しかし、両親の共働きが増え、逆に家族が集まりふれあう時間が減少している現状があります。また、少子化・核家族化等の家族形態の変化やひとり親家庭の増加に伴い、子育てに不安や悩みを感じている親が増えています。子育てと仕事の両立の負担感だけでなく、子育てそのものに負担感を感じている母親が増えている現在、各子育て支援機関との連携を図りながら、いつでも相談できる体制の整備や子育てグループの育成、支援が望まれます。

また、地域ぐるみで子育てを支援する体制づくりのために、地域の教育力を高めて、主体的な親の「学び」と「育ち」へと結びつけていくことが求められています。

重点目標	施策の方向性
1. 発達段階に合わせた学習機会の充実を図る。	社会性を身につけるための異年齢交流機会の提供に努める。
	絵本の読み聞かせ（幼児期の読書推進活動）の推進に努める。
2. 地域が育む子育て支援の推進を図る。	生活体験や自然体験等を通して、子育て支援機会の提供に努める。
	学級、講座等の参加者に対して託児サービスの充実に努める。
3. 親子が共に体験し活動できる環境づくりの推進を図る。	家族ぐるみの子育てを支援する学級、講座等の充実に努める。
	親子の遊び体験、学び体験活動の機会の充実に努める。
4. 保育所・幼稚園・学校・関係機関等の連携による学習機会の拡充を図る。	子育てネットワークづくり（親同士の仲間づくり）の推進に努める。